

2月になり、各職場では好むと好まざるとに関わらず、人事異動の「ウワサ」が出始めているのではないのでしょうか。高教組はかねてより、公平で透明性の高い、納得のできる人事異動を行なうよう県教委に要求してきました。しかし、県教委は人事を「管理運営事項」と位置づけて、組合や現場の声は「意見として聞く」だけです。変えるつもりはまったくありません。それこそが力の源泉だからです。

今回の内示は最悪の場合 3月21日！？ 翌日終業式・離任式となるおそれ

いつも群馬県では3月19日頃（原則として3月定例教育委員会で承認される日）に内示が行なわれていますが、今年は20日春分の日の翌日、21日になる可能性が大です。突然異動を伝えられ、心の準備もできないまま離任式を迎える方が多くいるのではないかと心配しています。群馬と違い、全国的にはもっと早く人事異動を伝えて次年度に備えるのが普通です。以下は近隣教職員組合の仲間から聞いた話です。

<東京都のAさん>

「東京では2月下旬に内示があり、2月中に異動先の学校に行って打ち合わせができます。」

<埼玉県のBさん>

「埼玉は2月20日過ぎに内示があり、2月中に転勤先に出張して分掌や部活動顧問の説明を受けることができます。」

<長野県のCさん>

「長野でも内示は2月下旬です。3月20日過ぎに異動先に行って引き継ぎをします。」

このように、群馬県よりはるかに早く内示を行い（内示が遅い県でも校長が異動情報を本人に伝え）、新年度に向けて早めの対応をしているところが多いのです。

早めの対応は多忙化解消への第一歩！引っ越しの経費節減にも繋がります！

どんな人が転動してくるか早めに分かれば、本人に確認して各分掌・部活動や学年での対応も考慮することができます。逆にギリギリまで伏せられていると年度末に担任団もきちんと決まらないといった事態になりかねません（中高連絡会はあて馬の人が行き、4月になったら1学年団ががらり変わってたりします）。多忙化解消というなら、年度末・年度初めのバタバタを少しでも解消するのが県教委の任務ではないのでしょうか？

また、年度末に急に引っ越しをしなければならなくなった場合、その気苦労や身体的な疲労も大きいですが、経済的にも大きな負担が掛かってきます。早めに引っ越し業者の予約ができれば、精神的にも楽ですし早割などの特典も使えます。地公臨や2校目となる先生方にとっては、一刻を争う事態となっています。

各職場で同じ対応を！「情報差別」は教育現場になじみません！

内示で問題になることの一つに、各職場での管理職の対応がマチマチだということがあります。自分の内示の内容を他人に伏せろという管理職もいれば、職員を集合させて異動者を発表する職場もあります。

また、転入者の名前などは多くの職場で伏せられるようですが、なぜか一部の先生方には知らされているようです。それ以上に、内示日には各科を中心にLINEなどの様々なSNSで情報が飛び交い、教職員が異動の情報を得ているのも事実です。入試情報などと同様に、みんなで正確な情報を共有し、3月中は生徒や外部には漏らさないことにすればそれでよいのではないのでしょうか？もっと公平に透明に、各職場で同じようにオープンに、異動の情報を明らかにしていくべきではないでしょうか？それで文句を言う人は、学校現場にはいないと思います（不本意人事で県教委に文句を言いたい人は少なからずいると思いますが）。

内示についてあなたのご意見を教えてください！

右のQRコードから、簡単なアンケートに回答できます。
内示についてのあなたのご意見をお寄せください。

